



課題研究のための

基礎スキル養成プログラム

1年生対象 インタビュー実践編

平成26年度(第1期)SGH指定校 長野県長野高等学校

学校情報

長野県長野高等学校 平成26年度SGH指定校

〒380-8515 長野県長野市上松1丁目16-12 電話 026(234)1215 FAX 026(234)3500

各学年約280人(7クラス規模) 1,2年は全員が課題研究を行う。

(インタビュー実践は、平成29年度7月に1年生の活動で実施し、30年度も実施予定。)

日程(平成30年度) Schedule

1. 7月21日(土)事前学習①
2. 7月23日(月)事前学習②
3. 7月24日(火)インタビュー実践当日
4. 7月25日(水)事後学習

企画説明

5月の「リサーチ基礎」では、興味関心の深化・拡大を図るとともに、リサーチ体験を行った。6月には、「ディスカッション講座」を行い、ディスカッションの方法論を学ぶと共に、ディスカッションに対するモチベーションが高まった状態でこの時期を迎えている。ここでは、リサーチやグループディスカッションに基づき準備した質問を、地域振興に活躍しており、その分野の事情にも精通している外部講師に投げかけることで、1次情報集約のために有効なインタビュー方法を探る。次頁の3部から構成される。

*本人が実際に体験して集める情報。別の目的のためにすでに収集されていて、どこかに(本やインターネットに)保管されているものを2次情報と呼ぶ。

獲得を目指すスキル

- ・問いを立てるスキル
 - ・情報を発信し、共有するスキル
 - ・場をファシリテートするスキル
- ～主体的、協働的な学びをするために

○第1部 (各部屋 20名)

講師による15分程度のミニレクチャーの後、各グループが10分の持ち時間で準備した質問に基づきインタビューを行う。その際、あらかじめ質問を記入した模造紙を黒板に貼り、講師の答えの趣旨やキーワードを、記録係の生徒が書いて、そのやりとりを会場で共有する。



○第2部 (各部屋 20名 第1部とは生徒を入れ替える)

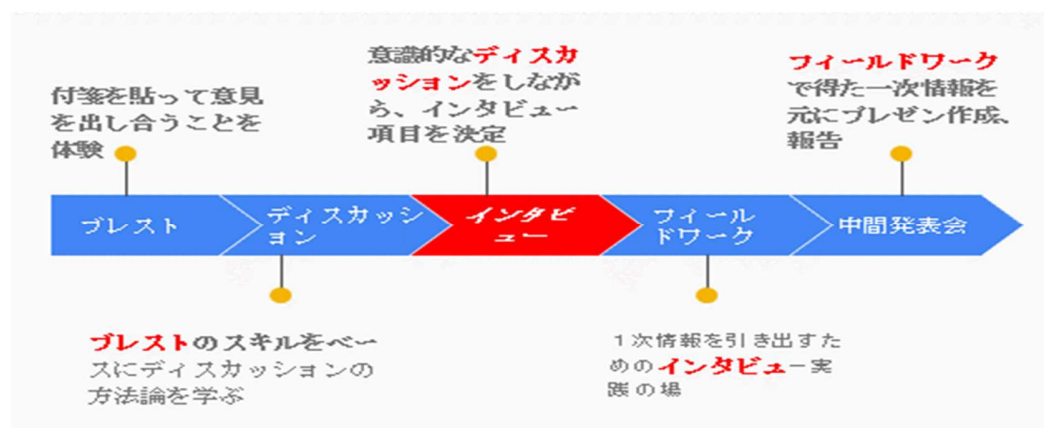
同じく講師のミニレクチャーの後、質問のある人が挙手を持って自発的に質問する。進行は、係の生徒が行う。会場に活発なやりとりが起きるようにファシリテートを行う。(模造紙は、第1部の教室に貼ったままで移動。)



○第3部 インタビュー研究

各会場の模造紙を見て回り、興味深い模造紙上のやりとりに付箋を貼る。会場にいる講師にも質問をすることができる。

基礎スキル養成全体像とインタビュー実践の役割



1年次は、上記のものに加え、リサーチ、ICT活用、ディベートの学習を授業内に入れることで、探究型学習に必要なスキルの獲得を目指す。

評価 Evaluation

生徒のワークシート、講師からのフィードバックも参考にしながら、以下の評価表で会場担当教員、SGH推進室職員が行う。

長野高校 SGHインタビュー実践 評価シート							
班		講師					
		観点	優れている	充分	可	不十分	得点
問を立てる	話題充当性	①一次情報収集の目的を考えたとき、その場にあった質問だったか？	4	3	2	1	
	問の準備	②リサーチとディスカッションに基づいた質問だったか？	4	3	2	1	
	問の連鎖	③質問により段階を追って話が広がるまたは深まるという、連鎖していく性質の問だったか？	4	3	2	1	
情報発信と共有	会場での情報発信と共有	④インタビューがポイントを要約したり、書記が適格な要約を模造紙に記入するなどの手段で、質問の意図を講師及び会場に共有できたか？	4	3	2	1	
	記録による情報共有と発信	⑤後の発表に関わる大事な情報を記録できているか？（後日、SGH推進室で評価）	4	3	2	1	
場の雰囲気	会場設営	⑥机・椅子の配置など会場作りができていたか？	4	3	2	1	
	雰囲気づくりと表現	⑦インタビュー、書記（模造紙記入係）は聴衆が話しを聞く雰囲気作りができていたか？インタビューの声の大きさ、速さ、アイコンタクトは適切か。	4	3	2	1	
コメント							合計
*自分の班以外で一番いいインタビューと思った班に2点加点すること（ボーナスポイント）							126

班編成について Grouping

- 1 「班編成のための希望調査」を元にして、インタビュー班を作る。
- 2 クラス内で5人程度の班を作る。(1クラス40人・8班。全体で280人・全56班。)
- 3 このインタビュー班で同じ講座に参加。第2部では同じ班で別講座への参加。

インタビュー実践では、1教室20人(4班)に分かれ、講師を迎える。それぞれの班が順番で講師にインタビューをして、インタビュー班以外の生徒はその様子を見る。

(企画者の注意点) SGH 係、SGH スタッフがバランスよく配置されるように、教室割りをする。

7月24日インタビュー実践講座 班編成のための希望調査				
総合の授業で行った「キーワード」などを参考に以下の講座を予定しています。必ず第3希望までの講座を記入してください。 (講座編成の関係で希望するところへ入れない可能性があります。自分の興味をうまく質問化して、知りたい話・1次情報を引き出してみましょう。)				
想定分野・キーワード				
1 農業とコミュニティ	<div style="border: 1px solid blue; padding: 10px; display: inline-block;">検討中</div>			
2 若者が活躍する地域づくり				
3 子ども支援と知育ネットワーク作り				
4 心理と統計のはなし				
5 社会課題に対する歴史的な視点				
6 長野の教育 現状と課題		第1希望	第2希望	第3希望
7 行政とまちづくり				
8 国際協力・持続可能な開発目標				
9 自然エネルギー (エネルギーの地産地消)				
10 健康安全な食の創造				
11 高齢化社会と地域医療				
12 長野の生物資源と生態系				
13 「障害」を持つ人との共生				
14 インバウンド (外国人受け入れ) の今		組	番	氏名
特別強い要望がある場合はその事情を具体的に記入してください。(内容によっては考慮します。)				

(72 SGH\H30\07 1 学年\計画・細案\0724 インタビュー実践(事前・事後含む) \0725 インタビュー (FW I)\インタビュー実践希望調査・講師 (決定))

(企画者の注意点) 事前に、係生徒を集めて、当日の進行ができるようにミーティングをしておくこと。

1 インタビュー実践へ向けての事前学習①

形式 SGH 係生徒による進行

準備 グループングリスト A3 の紙各班1枚

付箋 / ワークシート (担任から配布)

内容 インタビュー実践のガイダンスと「いい問い」を作るためのディスカッション



進行表 * 内は予定所用時間

5分メンバーを発表し、班ごとに集まる。

<係生徒の注意点>

- ・速やかに開始できるように、事前に各班が座る場所を振り分けておく。
- ・後の活動に使う A3 の紙1枚と付箋3束を、各班に配る。

5分班内での役割の決定 (当日までに変更可能)

- ・リーダー() 講師へのインタビューの企画運営責任者。
- ・サブリーダー () 当日リーダーがいなくても実施できるように準備。
- ・書記 (, ,) 講師の言葉をその場で可視化。
- ・記録 () 指定プリント記入、パソコンへの入力

<係生徒の注意点>

- ・係も自分が所属する班へ移動する
- ・その後も、クラス内を気にかけて、全てのスムーズに決まるように促す。
- ・全ての班が役割を決定したかを確認する。

5分係によるインタビュー形式の説明・デモンストレーション

- リーダー、サブリーダーが中心にインタビューを展開すること
- 書記は、事前に用意した質問項目を書いた模造紙に、キーワードまたは印象に

残った言葉を赤字で直接書き込む。(模造紙を使い実演して説明する。)

□ **10分** ディスカッション①「講師の先生にどんな質問をしたいか」

- A3用紙と付箋を使用して、多くの質問を引き出す
- (担任の合図で) 6分間のグループディスカッション開始
- グループリーダー (GL) が各班の活動を進行
- 担任はタイムキーパー。6分間計る。

<係生徒の注意点>

- ・係はディスカッション①が始まる前に以下のことをクラスに伝えます。
- ・(6月のディスカッション講座で学んだ) 『発散期・収束期などのフェーズ』を意識して、いい議論をしましょう!
- ・ディスカッション①は、発散フェーズです。付箋に思い浮かぶ質問を書き、どんどん貼りましょう。質問は多ければ多いほどよいです。
- ・この後の進行は、担任の先生お願いします。

(ディスカッション①終了後、担任は「ディスカッション②ワークシート」を配布)

次頁、次々
頁に掲載

□ **20分** ディスカッション②「講師に尋ねるべきもっともよい問い」

<係生徒の注意点>

- ・係はディスカッション②が始まる前に以下の2点をクラスに伝える。
「この後のディスカッション②はワークシートに沿って進めます。」
「GLは、班員が役割を理解していることを確認した上でディスカッションを始めてください。」
- ・担任と相談して、事前に終了時刻を設定して、クラスに伝える。

□ **10分** ディスカッション②ワークシート 個人記入欄を記入

(担任は、ワークシート記入の時間を取ってください。)

<ホームワーク> **講師・分野**について調べてくること。次回の授業は、情報を持ち寄ってのディスカッション。いいディスカッションができるように、新聞記事ひとつでよいので、話のネタを持ってくること。(担任から連絡)

1年インタビュー実践へ向けての事前学習①

1年 組 班 氏名

ディスカッション②ワークシート

ディスカッション①で貼られた質問の付箋を眺めて分析し、質問の精選をしていく。

リーダー（GL）は、班員を以下のAさんからDさんに割り振る。

GL 「講師に尋ねるのもっともよい問いを選ぶ」ことを目的に話を進めます。

班員全員が発言できるような環境を作り、意見を拾っていく。

意見の採用も決めていい。

Aさん 2次情報として調べればわかる質問を候補から外す。

Bさん 講師の答えを予測しながら、似たような質問を合わせて1つの質問にする。

Cさん 質問の意図が不明なものを候補から外す。なぜそれをこの人に聞く必要があるのか？

Dさん 別の視点の提示して、質問の可能性を広げる提案をする。

例「これって意外といい質問かもしれない。だって～かもしれないから。」

（Bさんに）「それら質問には違いがあるかもしれない。～かもしれないから。」

<GLの注意点>

意識的に自分の役割を演じることで、発散フェーズの話し合いを継続。班員が役割を演じているかどうかを観察。

裏面に個人記入欄あり

<個人記入欄>

グループでの話し合いを経て、あなた個人が講師に「聞いてみたい」と思う問いをいくつか書きましょう。

質問	意図または答えの予測

今日のディスカッションで印象に残った発言・やりとりをひとつ書きましょう。

<スキルアップ>

ディスカッション講座修了後の SGH 通信より抜粋 (平成 29 年度)

ディスカッション講座を今後の活動につなげるために次のような活動の場を用意しました。

7月25日 インタビュー実践

これは、各界で活躍する大人達に講師として来てもらいお話を伺う機会です。短時間のミニレクチャー後、みんなの質問でインタビューを進めていきます。まずは、準備として、グループで質のいい質問を作ります。そして、当日講師に投げしてみましょう。

「いい問い作り」とは？

今回養って欲しいスキルは、「いい問い作り」です。ディスカッション講座の「よい議論をするために必要なもの」の話の中で、使われていた言葉です。ディスカッションと同様に、インタビューを通じていい情報を引き出すためには、「いい問いを作る」ことが大切です。自分たち(の質問)を「メタ的に見る」または「ななめ上から見る」という過程を経ることで、質問の質が上がっていきます。

この「いい問を作る」能力は、現在2年生が行なっている、そして1年生が11月末に行うフィールドワーク(FW)での有効なスキルとなってきます。FWで、出かけていった先で、有力な一次情報を得るためのいい問い作りにチャレンジしてみましょう。

このように長野高校のSGH活動では、身につけたスキルを発揮する場所を提供しています。身につけたスキルを意識的に使い、話し方と考え方の習慣付けをすることでコミュニケーション能力を高めていきましょう。

インタビュー演習へ向けての事前学習②

形式 SGH 係による進行

内容 インタビューする際の質問の絞り込み

配布物 模造紙 付箋 マジック 古新聞

(いずれも、授業前に SGH 推進室前から持って行くこと)

進行 **5分** グループディスカッション①「情報共有(リサーチ発表)」

GL は、前回のワークシート(ディスカッション②ワークシート)を準備させて進行。

- 講師に関する情報 事前にインターネットで調べておこう。
- 関連する分野の情報 持ってきた新聞記事などの情報を共有しよう。

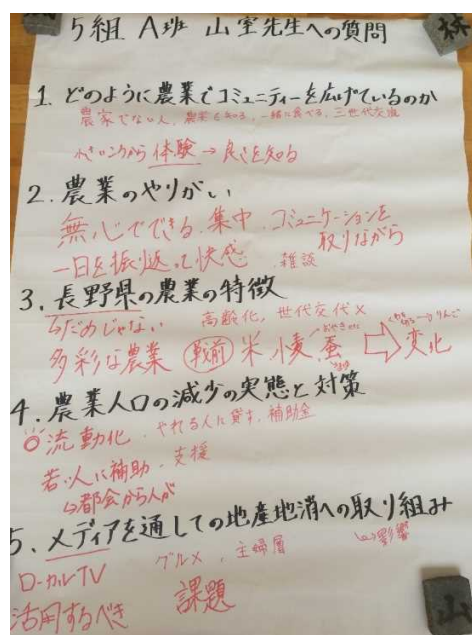
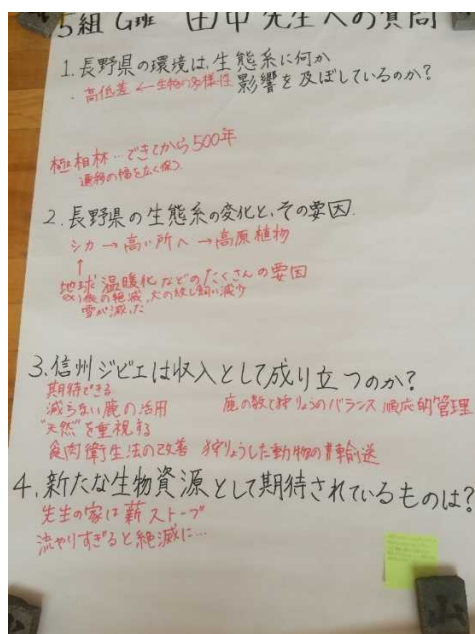
10分 グループディスカッション②「講師に尋ねたい質問」

- 持ち寄った質問、並びにこの場で思いついた質問の中から3~5個に絞り込む。
- 収束フェーズ。安易な多数決はしないで、議論を深めよう。

15分 模造紙作成作業及びインタビュー質問構想シート作成

次頁掲載

- GL は、班員にいずれかの作業を振り分ける。
- ディスカッションで決まった質問を模造紙及びシートに書く。
- 模造紙は、当日講師の言葉を赤字で記入するスペースを開けておくこと。



インタビュー用質問構想シート								
講師氏名		組	班	氏名	リーダー	サブ	書記	書記
講師紹介（肩書き・活動内容・研究内容など）								
関連する分野の情報（引用先明記）								
質問					意図・答えの予測			
.								
.								
.								
.								
.								
.								
.								
.								
.								
.								
.								
.								
.								

20分 班リハーサル～役割の確認

インタビュー（2名）：質問を行う人

① 班紹介・挨拶

「〇組△班です。インタビュー担当 A Bそして模造紙記入 C D、記録 E です。よろしくお願いします。」

*教室前方にて、講師と会場の人両方を意識した顔と体の向きを意識して立つこと。

② 「私たちが用意した質問はこれです。」

*模造紙を見てもらう 講師・会場との質問共有

③ 「私たちのグループでは、・・・」

*なぜそう思うようになったのかが伝わるように、またはどのような情報を得ることを目的にインタビューを行うのかを明らかにしながら、質問の前提を話す（15秒～30秒くらい）

④ 「今のお話に関連した質問はありますか。質問は、会場も含めてどなたからでも構いません。」

*予定した質問の回答に関連した質問ができる時は、次の質問に移る前に続けて質問する。

<これ以上の質問はしなくてよいと判断したら> 「では、私たちの用意した次の質問です。」

<以下②～④を繰り返す>

⑤最後にお礼を述べて終わること。



書記（1～2名）：掲示した模造紙に講師の答えの要点を記入

*講師の話のキーワード、印象に残った言葉を赤字で模造紙に書き込む。テレビ番組（報道系）のテロップを書くイメージ。文にする必要はない。第1部から第3部まで模造紙でのやりとりは掲示されるので、後で見た人にも雰囲気が伝わるように簡潔かつ効果的なワードチョイスを！

（模造紙については、15ページの参考資料を参照）

記録係（1名）：話を聞きながら用紙に記録を残す

*記録に基づいて、午後の活動が行われます。

次頁掲載

*講師の発言内容はもちろん、表情や雰囲気も大事な情報。積極的な気づきを大事に！

*なぜそのような発言をしたのか？またしなかったのか？を考えて、多くの情報を手元に記録を残す。

*記録係は次頁、次々頁の記録用紙を使用します

当日の全体進行は担当のSGH係またはスタッフがいきます。

リハーサル終了した班から解散／模造紙は係がまとめてSGH推進室へ

当日の動き

(8:35 までに第1部会場の机の移動を完了、8:50 準備了)

8:40 講師集合・打ち合わせ

8:55 移動

9:00 第1部 講師紹介（本校教員）

ミニレクチャー開始

9:15 インタビュー開始（SGH 係またはスタッフの生徒がファシリテーターとして全体進行）

*ただし、各班の持ち時間中は各班のグループリーダーが進行

各班、10分程度の持ち時間でインタビューをして、講師から話・情報を引き出します。

質問項目は、事前に模造紙に書いておき、黒板にそれを掲示しながら進めます。

10:00 ファシリテーターがお礼の言葉を述べて終了 第2部の会場へ移動

10:10 第2部 講師紹介（本校教員）・ミニレクチャー開始

10:25 インタビュー開始（SGH 係または SGH スタッフがファシリテーターとして全体進行）

第1部と違い、挙手を持って質問します。（第2部に向けては模造紙の準備は行いません。

会場には第1部の模造紙が掲示したままになっているので、質問をする際の参考にします。）

11:00 ファシリテーターがお礼の言葉を述べて終了

第3部（インタビュー研究）の会場へ移動

11:00～11:40 インタビュー研究

各会場の模造紙を見て回り、興味深い模造紙に付箋を貼ります。残ってくれた講師の方がいれば、質問してみましょう。

11:50 第1部の部屋へ戻る 連絡あり

12:40 - 14:10 各班でのまとめ、パソコン入力、発表準備



運営マニュアル

第1部 メンバー全員が役割を自覚して行動

グループ内の役割分担（第1部）

インタビュー（2名）：質問を行う（以下スクリプトを参考に10分間のインタビューを進行）

書記（1～2名）：模造紙に講師の答えの要点を記入

記録係（1名）：記録用ワークシート記入

*書記：模造紙掲示

インタビューマニュアル（今回は会場の前方に出てきてインタビューします。）

① 班紹介・挨拶

「〇組△班です。インタビュー担当 A Bそして模造紙記入 C D、記録 E です。」

「よろしくお願いします。」

※講師と会場の人両方を意識した顔と体の向きを意識

② 「私たちが用意した質問はこれです。」

※模造紙を見せよう 講師・会場との質問共有

③ 「私たちのグループでは、・・・」

※なぜそう思うようになったのかが伝わるように、またはどのような情報を得ることを目的にインタビューを行うのかを明らかにしながら、質問の前提を話す（15秒～30秒くらい）>

*書記：講師の話のキーワード、印象に残った言葉を赤字で模造紙に書き込む。テレビ番組（報道系）のテロップのイメージ。文にする必要はない。第1部から第3部まで模造紙でのやりとりは掲示されるので、後で見た人にも雰囲気伝わるように簡潔かつ効果的なワードチョイスを！

④ 「今の先生のお話に関連した質問はありますか。質問は、会場も含めてどなたからでも構いません。」

<なければ>「では、私たちの用意した次の質問です。」<以下②～④を繰り返す>

最後にお礼を述べて終わること。

記録係の注意点 記録に基づいて、午後の活動が行われます。

講師の発言内容はもちろん、

- ・表情や雰囲気も大事な情報。積極的な気づきを大事に！
- ・なぜそのような発言をしたのか？なぜ予想される発言をしなかったのか？を考えて、多くの情報を手元に記録を残す。

第2部 会場全員が役割を自覚して行動

第1部と違い、挙手を持って質問します。第2部では、会場にいる全員がインタビューです。

第2部の講師についても、事前にグループ・個人で下調べをしておくこと。

第3部 いいコメントをしよう 積極的に話しかけよう

第3部は、インタビュー研究です。3階各教室を周り、掲示されている模造紙にコメント（付箋）を貼ります。単に「Good」「面白い」だけでもいいですし、単純な質問や自分が知っていることの発信でも構いません。発表者や講師に嫌な思いをさせるコメントは絶対に避けましょう。

※講師の先生がいる場合は、「このやりとりを見て思ったことがあるのですが。」「先生のプロフィールをみたのですが。」などと切り出して、積極的に質問したり話しかけたりしましょう。

11:50 第1部の教室に集合

ファシリテーター用 運営マニュアル

長野高校職員の動き

会場準備：全員 机の移動（SGH スタッフの指示で）全員

準備 掲示用テープ 模造紙 ワークシート（記録用・個人用の2種類）

8：55 校長室へ講師を迎えに来る ペットボトルのお茶をもらう
講師を教室までご案内する

第1部 9:00-10:10（9：00前に会場準備）教室（ ） 講師 【 】先
生

全体進行（ ）（ ）←SGH係・スタッフ

講師紹介（ ）先生 ←長野高校の先生

↓顔を上げて話せるように、大きめの文字で書いてあります。

全体進行：（講師入室後）（話を聞く環境ができていることを確認して）これよりインタビュー実践第1部を始めます。

この場の全体進行を担当する1年 組（ ）（ ）です。この第1部は、10時10分までの予定です。ご協力よろしく申し上げます。

まず第1部では、講師の先生に15分程度のミニレクチャーをして頂いてから、各班10分のインタビューを行います。インタビューの進め方と役割を確認します。まず各グループのインタビューは、準備した質問をして、その質問へのお答えという形で先生からお話を頂きます。

各グループの書記は、ミニレクチャーが終わったら、用意した模造紙を黒板に貼ります。先生からのお答えを聞きながら、その内容や印象に残った言葉、会場で共有したい言葉をその場で拾って書いていって下さい。

記録係は、午後の活動に使う記録用のワークシートを記入して下さい。

なお10分以内でのインタビュー終了は認められませんので、インタビューは、用意した質問が終わった場合でも、その場で得た情報を元にインタビューを続けて下さい。

タイムキーパーは、私たち進行係で行い、時間をお伝えしますのでご協力よろしくお願いします。

発表班以外の方は、ワークシートにメモをとりながら、Good Listener、良い聞き手としてこの会に参加してください。

では本日の講師、【 】先生をご紹介します。（ ）先生をお願いします。

長野高校職員による講師紹介。そのまま講師の先生にお話頂きます。

<ミニレクチャー終了後>

【 】先生、ありがとうございました。各班、模造紙を前の黒板に貼って下さい。

＜テープで模造紙が貼られるのを待って＞

では、組 班よりインタビューを始めて下さい。

＜10分を過ぎ、講師の話が区切れるのを待って＞

組 班のみなさん、ありがとうございました。続いて 組 班お願いします。

＜同様に残りのグループを続ける。最後の班が終わったら＞

それでは、第1部はここまでになります。

＜司会者が、短めに感想を述べて下さい。＞

【 】先生にお礼を言います。全員起立してください。【 】先生ありがとうございました。

では、忘れ物のないように次の教室へ移動してください。

＜10時10分までは他会場が終わっていないので待機＞

＜移動が始まったら、講師と本校職員に個人的にお礼を言って次の会場へ移動＞

第2部 10:20-11:00

教室（ ）講師 【 】

全体進行（ ）（ ）←SGH係・スタッフ

講師紹介（ ）先生 ←長野高校の先生

長野高校職員 講師はその場でお休み頂いて下さい。必要ならトイレをご案内して下さい。

全体進行：（話を聞く環境ができていることを確認して）

これよりインタビュー実践第2部を始めます。

この場の全体進行を担当する1年 組 () () です。

この第2部は、11時までの予定です。ご協力よろしくお願いします。

第2部でも、まず講師の先生に15分程度のミニレクチャーをして頂きます。その後、質疑応答形式でのインタビューに入ります。今回は、第1部と違い、挙手を持っての質問です。質問のある人は、挙手をしてもらい、講師の先生に指名されたら、名前とお礼や感想など一言述べてから質問をして下さい。

これからの25分間はこの会場にいる全員がインタビューアです。どんどん質問して、この会場が他の会場より盛り上がるように、ご協力をお願いします。

また他の人が質問しているときには、ワークシートにメモをとりながら、Good Listener、良い聞き手としてこの会に参加してください。

では本日の講師、【 】先生をご紹介します。()
先生をお願いします。

長野高校職員による講師紹介。そのまま講師の先生にお話頂きます。

<ミニレクチャー終了後>

【 】先生、ありがとうございました。では、質疑応答に入ります。挙手を持ってお願いします。(以下様子で)

—質問が出ない時はグループで相談しても構いませんが、質問が始まったら静かに聞くようにして下さい。

—質問が途切れているので私の方からお尋ねします。・・・

<11:00になったら>

それでは、第2部はここまですりなります。

＜司会者が、短めに感想を述べて下さい。＞

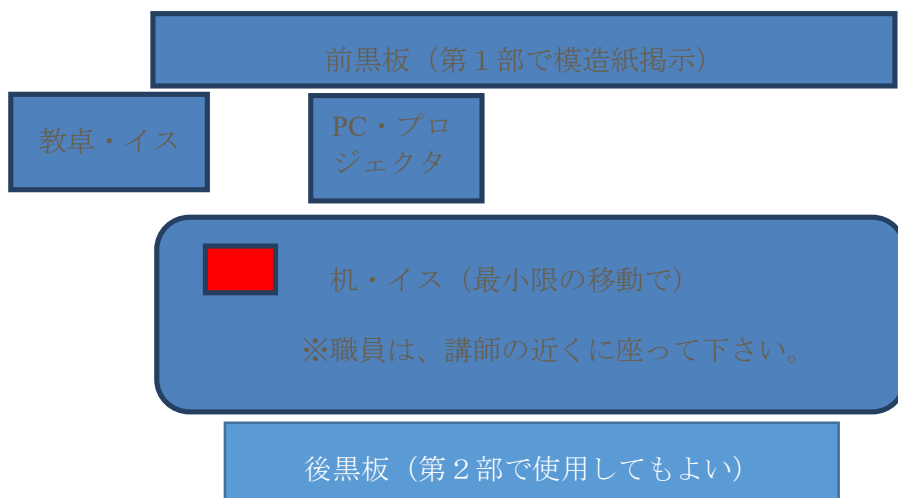
【 】先生にお礼を言います。全員起立してください。【 】先生ありがとうございました。

この後のスケジュールを確認します。この後、私達生徒は、3階各教室の模造紙に記入されている部屋ごとのやりとりを見て回る「インタビュー研究」になります。これは、11時40分までの予定です。この部屋にも多くの生徒が訪れると思いますが、講師の先生もお時間が許す中でお付き合い頂ければ幸いです。

＜移動が始まったら、講師と本校職員に個人的にお礼を言って次の会場へ移動＞

なお11時50分には、第1部の教室に戻って担当の先生から連絡を聞いて下さい。では、忘れ物のないように移動を開始してください。

会場図



職員は、講師の先生を校長室へお連れして下さい。時間過ぎまでいらしてくれる先生もいると思いますが、付き添って下さい。ただし、遅くとも11:40分には、校長室へお連れ下さい。その後、再び担当教室へ戻り、戻ってきた生徒（第1部参加者）にSGH通信とワークシートを配って下さい。生徒に手伝ってもらいながら必要な片付けをお願いします。3年生が授業をしていますので、机の移動はできるだけ静かに行って下さい。



*各教室の実情に合わせて臨機応変に対応。レイアウトはさまざま

分野と講師一覧(昨年のもの)

想定分野・キーワード	肩書・氏名		団体名	担当教員	部屋
1 農業とコミュニティ	専務理事兼事務局長	山室 秀俊	NPO法人よっこらしょ	玉木	301
2 若者が活躍する地域づくり	事務局長	大宮 透	一般社団法人小布施まちイノベーションHUB	大池	302
3 子ども支援と知育ネットワーク作り	子ども支援コーディネーター	中城 隼人	長野県NPOセンター	牧野内	303
4 心理と統計のはなし	屋代高校SSH担当職員	大石 超	屋代高校	吉田篤	304
5 社会課題に対する歴史的な視点	長野高校教頭	小川 幸司	長野高校	夏目	305
6 長野の教育 現状と課題	長野高校校長	原 良通	長野高校	恩澤	306
7 行政とまちづくり	長野県議会事務局	相田 貞晃	SHIP(信州イノベーションプロジェクト)	渡辺	307
8 国際協力・持続可能な開発目標	JICA駒ヶ根長野デスク	榎本 智恵子	JICA駒ヶ根	吉田恵	308
9 自然エネルギー(エネルギーの地産地消)	事務局コーディネーター	小田切 奈々子	自然エネルギー信州ネット事務局	徳竹	309
10 健康安全な食の創造	代表取締役専務	久世 良太	サンクゼール株式会社	若月	310
11 高齢化社会と地域医療	事務次長	杉原 大輔	長野中央病院	宮崎俊	311
12 長野の生物資源と生態系	准教授	田中 健太	筑波大学山岳科学センター(菅平)	榎澤	生物
13 「障書」を持つ人との共生	自立支援部門マネージャー	小山勝章	社会福祉法人 森と木	佐藤充	理科講義室
14 インバウンド(外国人受け入れ)の今	オーナー	山上満里奈	ゲストハウス くら	福田	化学



1 事後学習① <インタビュー実践 午後の部>

(外部講師なし)

形式 係生徒による進行

準備 記録係用カラーワークシート配布

内容 ワークシート記入と翌日の発表へ向けたディスカッション

12:40—12:55 各自振り返りシート記入(個人)

次頁次々掲載

13:00—13:20 ディスカッション「明日の発表でクラスに伝えること」

*翌日の発表は、各班3分程度

- 司会は、Group Leader
- タイムキーパー (TK・時間を意識して適宜伝える) をグループ内で決めよう。
- 記録係のワークシート (色つき) を見ながら、以下のことを考える。
- * まずは「伝えたいこと」 やりとりを通じて気づいたこと、共有したいことなど、伝えてもいいじゃないかと思うことをどんどん挙げよう～**発散 (6分)**
- * 続けて「伝えること」 どの切り口から発表するか考え、「発散」で出たものを絞り込もう
～**収束 (6分)**

13:20—13:50 パソコン入力 混雑緩和のため記録係のみで行う。

記録係は、班全員の振り返りシート (午前の部まとめ) を回収後、静かに入力場所へ移動。

記録係以外 教室で翌日の発表準備・練習。

- 翌日の発表の役割分担とリハーサルをしよう。
- (模造紙を見せながら) 講師の先生とのやりとりを紹介しよう
- グループで決めた「伝えること」をしっかりと伝えられるように発表方法を考えよう。



<明日の報告会では、1部を中心に話してもらいますが、2部についても口頭で報告できるように準備しておこう。>

*記録用入力シートは、この後の「振り返りシート」の次頁に掲載

記録係がパソコンに入力する用のシート ※評価対象

Class	Group	記録者	講師①	印象に残った一次情報・言葉(ひとつ)とその理由	その他印象に残った言葉	講師②	自分たちの質問をひとつ	印象に残った一次情報・言葉(ひとつ)とその理由	その他印象に残った言葉
1 A									
1 B									
1 C									
1 D									
1 E									
1 F									
1 G									
1 H									

Class	Group	記録者	講師①	印象に残った一次情報・言葉(ひとつ)とその理由	その他印象に残った言葉	講師②	自分たちの質問をひとつ	印象に残った一次情報・言葉(ひとつ)とその理由	その他印象に残った言葉
1 A		柳澤 拓馬	大宮透先生	若者が活躍しようとしているのにそれを妨げてしまい、活動できないようにしてしまっている環境が問題である。	andは同じ世代同士ではないコミュニケーションツールとなるが、違う世代とのコミュニケーションにおいては、いじわるなものだ。	大室先生	農業の魅力とは	日本全体を見ると約140万ヘクタールの遊休農地が存在し、そのうちの半数が所有者が存在するものの放置している状態である。	
1 B		小林悠理	中城隼人さん	子供の支援に関するNPOの活動には、高校生でも参加することができる。興味を少しでも持ったら、少しでも早く行動に移すべきだ。	長野県は子供の貧困への対策が、全国的にみてもっとかりんとして評価されている。	大石超 さん		統計は全分野の基盤になる。情報が氾濫している中で、鵜呑みにするのは危険。	有意差を計算することで、その結果が偶然か、そうでないかを証明できる。
1 C		小松正基	大石超	感情知能(EQ)が高い人が社会で活躍できる。心理学は生きていく中のあつらひの判断に役立つ＝統計。感情知能は、感情を知覚、感情を理解、感情を利用、感情を調整の四つの段階に分けられる。	感情は生物の進化の過程で身についたもの	山上マリナ	グローバル化していく世の中でゲストハウスはどのような役割を果たそうとしているのか	積極的にコミュニケーションをとり、コミュニティを増やす事が大事。外国の人とのコミュニケーションにおいて、言語がしゃべりやすいかではなく、どのように相手に伝えるようにするか大切。	
1 D		吉岡樹生	小川幸司 先生	教育、相手の生活を安定、歴史和解などの人間の安全保障によって、根本的な解決ができる。テレビでは、本当に何が起こっているのかは分からない。	自分たちで見ようとする、ジャーナリストの活動は大事。	山上満里奈 先生	これからのゲストハウスの存在意義は？	一人でもその国の友達を作る。そうすると、その国について知れる。	英語ができるかではなく、自分の意見を持つことが大切。
1 E		武田知明	相田貞典様	大きなことはできずとも、そのきっかけを作ったり、新たな視点を得るために、何かをすることが大切。	長野県の良さとして、適度に都会と田舎が存在するから、持前の習慣がある。	小川幸司様	教育の問題として、なぜ知識ばかりを詰め込むような教育になってしまったのか？	歴史は、知識を基礎とした上で、これからの未来について考えることが大切。	常に課題の一步先の課題について考えよう。
1 F		吉田春城	久世良太さん	失敗から学ぶので失敗することはいいこと。大切なのは失敗を役立てること。	自分が海外でわくわくを体験することでお客様の必要なものを先回りする。	相田貞典さん	長野においてバリアフリーはどうするべきか？	過疎を防ぐための取り組みとして人口の流出を抑えることが1番。課題となるのは医療。	自分たちの人生を楽しく生きてどんな人生を送りたいかというのが可成りの第一歩だと思う。
1 G		宮崎琴葉	杉原大輔先生	たくさんの病院があるなかでの地域連携と統制を大切にしていこう。地域とのネットワーク	信頼関係を築けるような関わり、また何事にも楽しんで取り組む	田中健太先生	地域医療改善のための取り組み	絶滅危惧種の生き物は、人間の生活を豊かにしてくれる	地域独自の生き物を大切にしていこう
1 H		後藤晴海	小山勝章先生	障害者は自分たちと同じ人間であり、人権を持っている。障害者とひとくくりにするのではなく、一人一人大切に、接していきることが大切である。	その人がその人らしく	杉原大輔先生	医師たちの労働環境とは？	地域医療の繋がり大切。また、地域づくり大切。	地域の強みを持つような人との関わりを作っていく

インタビュー実践まとめ② (翌日)

発表場所 HR 教室

進行 担任・教科担当の先生

準備 インタビュー実践で使用した模造紙
振り返りシート② (SGH 係が配布)

内容

- ①インタビュー実践を振り返り、班ごと発表 (各班3分くらいの発表、その後各班の質疑)
- ②振り返りシート②を記入

SGH 係が回収して、SGH 推進室へ提出。



質疑応答例 紹介

- ☆自然エネルギー講座と生態系講座の話聞いた生徒が、両講座で聞いた話について発表したところ、「長野県の持つ自然エネルギーの可能性を考え、ダムを造るべきと考えるのか。それとも、下流域の自然環境を考えて、ダムはやめるべきと考えるのか。」という質問が出された。質問を受けた生徒は、「下流域の豊かな土壌などの環境は、河川の氾濫によってもたらされていたもので、現在は堤防工事などにより氾濫はほぼ起こらない。ならば自然エネルギーの可能性を優先させ、ダムを造った方がいいと考える。」と答えた。
- ☆質問者「僕は、環境分野の話聞いてきたのですが、生態系を考えたときグローバル化はよくないと考えるようになったのですが、グローバル化のメリットは何ですか？」(国際協力の講座に参加した) 回答者「シリア内戦のように、グローバル化により情報が入ってこなければ、他国に住む我々が見つけられない問題もある。」

※次ページのワークシート (振り返りシート②) は、秋から始まる課題研究班作成のための資料となる。またすべてのワークシートを評価の対象とする。(掲載したワークシートはいずれも去年のもの)

*7月26日授業終了時SGH係に提出。			
インタビュー実践 振り返りシート②		インタビュー実践翌日実施	
インタビュー実践振り返りワークシート			
1. 班の情報 (組 班)			
2. 26日のクラス内発表会で、他の班のプレゼンテーションを見て感じたことや考えたこと。			
3. これからの先の課題研究に向けての気持ちと課題の方向性。			
クラス()番号()氏名()			検印
選択キーワードA(以下の語から、1つを選んで報告)			
スポーツ・食品・農業・生産財・林業・科学・技術・自然・環境・教育・歴史・文化・宗教・芸術・医療・健康・地域・子ども・観光			
選択キーワードB(以下の語から、1つを選んで報告)			
貧困 飢餓 健康福祉 教育 ジェンダー 水 エネルギー 労働・経済 産業・技術革新 平等社会 持続可能社会 生産・消費 温暖化 海洋資源 自然資源・森林資源 平和 協働			
選択 キーワードA	選択 キーワードB	自由	自由
リマインダー(どうしてこのキーワードにしたか書いておこう)			